

六郷特別出張所管内	
人口	男 33,414人
	女 31,689人
	計 65,103人
世帯数	32,111世帯
平成25年10月1日現在	

六郷わがまち

発行：地域力推進六郷地区委員会
 編集：「六郷わがまち」編集委員会
 事務局：大田区六郷特別出張所
 〒144-0055 大田区仲六郷2-42-2
 電話 03(3732)4885
 FAX 03(3735)6249

六郷わがまち 検索

特集

六郷の誇り 作家 安部龍太郎の世界

六郷にお住まいの作家・安部龍太郎氏が、今年一月、小説『等伯』で、第一四八回直木賞を受賞。七月には、大田区民ホールアプリコで、「等伯を書くまで」の講演会も開かれました。この度「六郷わがまち」では、郷土の誇りである安部氏にインタビューをお願いし、そのお人柄に迫ってみました。

安部龍太郎氏へのインタビュー

「六郷わがまち」編集委員がお聞きしました



委員 第一四八回・直木賞受賞、たいへんおめでとございます。
 同じ六郷に住む私どもにとつて、まことに嬉しい限りです。

安部 ありがとうございます。
 委員 はじめに、六郷との接点を教えていただけますか？

安部 当時、同じ職場に勤めていた家内の実家が西六郷だったので、結婚を機に住むことにしました。九州出身の僕には、何処に住みたいという希望はなかったので、家内の希望を優先しました。
 委員 そうでしたか。ところで、六郷の歴史の特徴、あるいは町の魅力は、どんなところでしょうか？

安部 昔の東海道沿いということもあって、文化も食文化も充実しています。そもそもここは昔から文化の交流地でした。そのひとつの例が、六郷神社と八幡太郎義家のつながりだと思います。それに、下町の雰囲気が残っているのもいいですね。
 委員 では六郷のおすすめスポットは？

安部 僕は仕事が終わって、居酒屋で一息ついて自宅に帰ることが多いです。店の名前をだすのは控えますが、心優しいマスターやママがいる店が多いのでありがたいです。
 また、大田区には黒湯の銭湯がとて多いですね。六郷の温泉でよく行くのは「さがみ湯」です。お風呂に入ってマッサージを頼んでリラックスしています。

委員 奥様のご理解で執筆活動が続けられたと講演会で伺いました。
 安部 家内のお陰で今の僕があります。
 作家安部龍太郎は、家内の作品です。
 委員 お好きな座右の銘などを教えてくださいませんか？

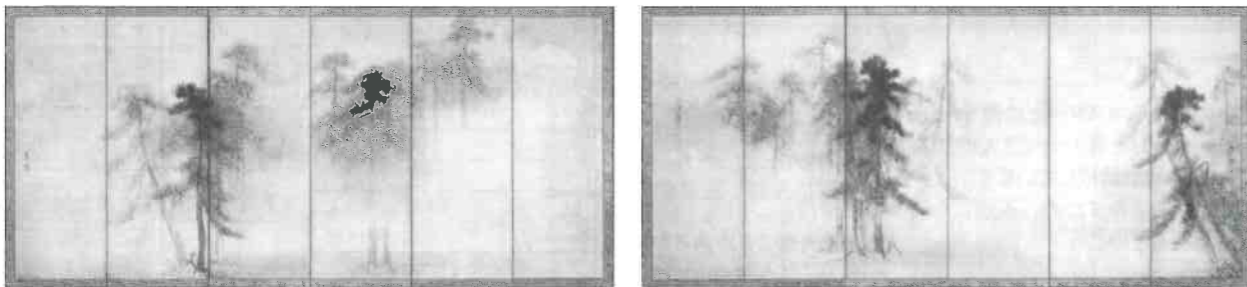
安部 いつも口ずさんでいるのは「どうしようもない私が歩いている」という種田山頭火の句です。ろくでもない男が小説という夢に人生をかけて、何とか形になったということです。
 委員 代表作は『等伯』ですが、等伯をお書きになろうと思われたきっかけをお聞かせいただけますか？

安部 歴史小説を書いていく中で、いつかは安土桃山時代の絵師について書きたいと考えていました。絵画なら多くの作品が残っているので、四百数十年の時を越えても直に対話することができると思います。
 以前、画家の西のぼるさんにそんな話をしたら、長谷川等伯を書いてくださいと間髪を入れずに申し出があったのです。等伯は、西さんの郷里である能登の出身で、国宝の「松林図屏風」を残した画家だということです。
 調べてみると、確かに興味深い。三十三歳のときに一流の絵師を目指して郷里の七尾を出たことや、当時の絵画界の権威であり支配者であった狩野派に悍然と挑戦したところなど、共感せずにはいられない、熱いドラマに満ちていました。

委員 「松林図屏風」の実物をご覧になった時の印象はいかがでしたか？

安部 まさに存在感が圧倒的で、絵の中の違う世界に導かれるようでした。それが仏教観によるものか解るまでに、だいぶ時間がかかりました。そして衝撃と感動のあまり暫くその場を動けなかったことを憶えています。
 委員 歴史小説を書く上で、史実と虚構とをどのようにうまく構成させているのでしょうか？

安部 そうですね。一般の方は、史実は確定したものとお考えのようですが、決してそんなことはありません。権力を持つものの都合のいい解釈に過ぎないので、その嘘を突き破り、本当の日本人像に迫りたいと願っています。



左隻 国宝 松林図屏風 <長谷川等伯 安土桃山時代 東京国立博物館所蔵> 右隻

Image : TNM Image Archives



六郷新庁舎関連トピックス

◆内覧会

日時：平成26年1月25日（土）

10時～15時

※事前の申込は必要ありません。

お気軽にお越しください。

◆次号（第62号）のお知らせ

次号は、新庁舎のオープンに合わせ、通常より1ヶ月早い2月1日付で発行いたします。

真新しい建物を隅々まで取材し、その魅力を存分にご紹介します。

どうぞお楽しみに！

◆工事進捗状況

新庁舎の完成まで残り2ヵ月を切りました。これまでの工事の様子は、大田区ホームページでご覧いただけます。



待ちに待った新庁舎。クリスマス頃によいよ完成です。楽しみです！



この部屋は介護予防の拠点として、地域から期待されています。広くてのびのびと身体を動かせます。

2階多目的室。内装工事を進めています。

小説『等伯』のあらすじ

能登七尾に生まれた奥村又四郎(のちの長谷川等伯)は、絵の才能を認められて、長谷川宗清の養子となり、信春と名乗って、宗清の娘静子と結婚、長男久蔵を授かります。

刀を筆に持ちかえたものの、陰謀や戦乱に巻き込まれるなど難辛が待ち受けます。宗清を師に仏画を描いていた信春ですが、芸域を広げるため33歳の折上洛。花鳥画、山水画を手がけるようになります。作風は既に画界の頂点に達していた狩野永徳に迫るものがあり、やがて秀吉、利休らに重用されます。

51歳で長谷川等白(その後等伯と改名)と名乗りますが、権勢を誇った宿敵狩野派との対立、心の師である利休との永遠の別れ、長男久蔵の不慮の死など、苦悩の日々が彼を襲います。

しかし、これらを乗り越えた末に、不朽の名作「松林図屏風」を世に送り出し、当代一の絵師の地位を築いたのです。



講演はユーモアと熱弁で、また「この様な華やかな人生が来るとは思わなかった」と発表時の喜びを語っていました。

あつと言う間に予定の1時間半が過ぎ、盛会のうちに終了しました。大田区には、馬込・山王を中心に、大正末期から昭和の初期にかけて多くの作家や芸術家が住んでいました。今後は、安部氏を慕って、わがまち六郷に、文人墨客が居を構え、「六郷文化村」ができればどれだけ素敵だろう、と感じました。

去る七月七日、アプリコ展示室で安部龍太郎氏の「等伯を書くまで」と題した講演会が開かれ、編集委員三名で参加しました。安部氏は、一九五五年福岡県に生まれ、十九歳で小説家を志し上京。大田区役所図書館司書として働きながら、文学賞に応募を続けました。

安部龍太郎氏講演会

「等伯を書くまで」に参加して

委員 これまでの話から、『等伯』は周囲の方々の協力もあってできた作品であることが分かりました。それでは、今後の執筆活動の予定をお聞かせいただけますか。安部 今は、東北地方を中心とした小説に取り組んでいます。福島原発事故に対する政府と日本人の対応に憤りを感じ、日本にとって東北とは何か、東北にとって日本とは何か、という所を突き詰めたいからです。委員 それは楽しみです。先生には『等

※文中の表現・漢字等は、安部氏のお話を忠実に記載しました。

伯』を超える作品をこれからも期待しています。最後に「六郷わがまち」の読者と子どもたちにメッセージをお願いします。安部 自分の目標に向かって自信を持ち、覚悟を決め努力を続けてください。委員 本日はお忙しいところ貴重なお話ありがとうございました。

一九八七年に『師直の恋』でデビュー。『血の日本史』で注目を集め、『彷徨える帝』が第百十一回直木賞の候補となりました。二〇〇五年『天馬、翔ける』で中山秀秀文学賞受賞、二〇一三年に『等伯』で念願の直木賞を受賞されました。

～ 安部氏行きつけのお店に行ってきました ～

六郷には、安部氏御用達の旨い店がたくさんあるそうです。その中から2つのお店にお邪魔して、電撃取材を敢行しました！

居酒屋A

先生と一緒に飲んだお客さんは、皆さん「先生は気さくで庶民的な方だ」と言っています。先生は、カラオケがお得意。特に演歌がお好きで、何でも歌い、腕前もまさにプロ級とのことです。



焼肉店B

先生と雰囲気似ているマスターとは数十年来の親友で、もう一人の方と合わせて3人の飲み友達は、G3(ジーサン?)を結成しています。先生は、新たな創作に活かすため、茶道にも積極的に取り組んでいるとのこと。



安部氏と同じものを食して作家気分になってみては？そして、ふと気づいたら、隣に人気小説家が座っていた…そんなことがあるかもしれませんね。

秋の夜長にお薦め安部作品

- 師直の恋 1987 新潮社
- 血の日本史 1990 新潮社
- 彷徨える帝 1994 新潮社
- パサラ将軍 1995 文春文庫
- 関ヶ原連判状 1996 新潮社
- 風の如く水の如く 1996 集英社
- 密室大坂城 1997 講談社
- 神々に告ぐ 1999 角川書店
- 信長燃ゆ(上・下) 2001 日本経済新聞社
- 天馬、翔ける 2004 新潮社
- 下天を謀る 2009 新潮社
- 等伯(上・下) 2012 日本経済新聞社